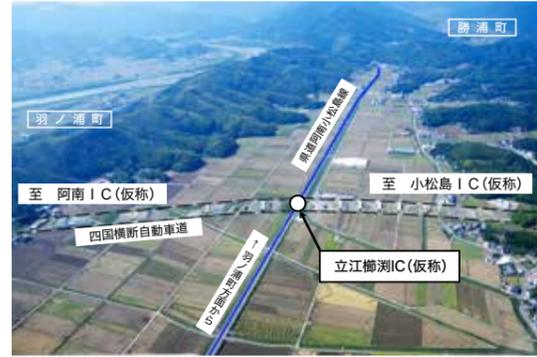


立江櫛淵インターチェンジ（仮称） 四国横断自動車道に接続

徳島県が整備する四国横断自動車道「立江櫛淵インターチェンジ（仮称）」の設置が許可されました。四国横断自動車道と県道阿南小松島線が交差する小松島市立江町および櫛淵町に接続し、徳島市、阿南市両方面への出入りが可能となることから、周辺道路の渋滞が緩和されるとともに、市民の皆さまの利便性向上が期待されます。



伊島の魅力を発信！写真展を開催

9月13日、市役所1階にて、伊島写真展とその優秀作品の授賞式が行われました。応募総数40枚で、力作ぞろい。伊島の鮮やかな一瞬を切り取っていました。最優秀賞を受賞したのは、吉田圭作さん（38歳・徳島市）で、雨あがりの瑞々しいささゆりの写真でした。吉田さんは「多くの人に伊島の魅力を知ってもらおうきっかけになってほしい」と話していました。



地元の環境を守りたい

9月22日に桑野川沿いを清掃する第1回K・R・C（桑野リバークリーン）作戦が行われ、桑野地域振興協議会、愛郷会、桑野セニヤクラブ、山口セニヤクラブ、桑野婦人会、山口婦人会、その他の有志など、約130人が参加しました。参加者は捨てられている廃棄物の調査を行い、撤去作業と、それぞれの収集日に出せるように分別を行いました。集めたごみは、約50袋になりました。



那賀川沿いを銀輪駆ける

平成2年から続くサイクリングイベント「第30回那賀川流域センチュリーラン」が10月6日に開催されました。コースは、那賀川河川敷公園からスタートし、那賀川に沿って那賀町四季美谷温泉折り返し（130km）と徳島森林づくり推進機構折り返し（46km）の2コース。参加者は、思い思いのペースで気持ちよさそうに風を切っていました。なお、参加者359人のうち、348人が完走しました。



よりよい終活の一助に

人生の最後を見据え、家族など大切な方に自身の情報や希望を書き記しておくエンディングノート「たまたて箱」を作りました。たまたて箱には、自身のプロフィールや葬儀の希望などを記入することができます。表紙をデザインした吉積怜生さん（富岡西高校2年）は、「ノートを記入することで大切な家族と話すきっかけにしたいです」と話していました。たまたて箱は、市ホームページから印刷できます。



阿南市フェイスブック 阿南市や地域の出来事をいち早くチェック！
市ホームページからご覧いただけます。
<http://www.city.anan.tokushima.jp/>

News Oasis



防災・防犯対策に 情報通信技術を活用

南海トラフ巨大地震などに備えて、情報通信技術（ICT）やモノのインターネット（IoT）を活用した防災・防犯対策を考える「あなん先進的防災・防犯システム検討委員会」を設置しました。9月24日、市役所で第1回検討委員会を開催。高台が少なく迅速な避難が必要とされる那賀川町をモデル地区として実証実験を行い、災害時の停電でも途絶しない通信網の整備を図ります。

合志市とパートナーシティ協定を締結

本市は、熊本県合志市との間で人権啓発や災害支援の面で連携する協定を10月1日、合志市役所で締結しました。本市は、ハンセン病を発病しながら偉業を成し遂げた北條民雄（作家）や青木恵哉（キリスト教伝道者）を輩出。合志市には、全国最大のハンセン病療養所「菊池恵楓園」があり、人権教育・啓発に力を入れていることが縁となりました。今後、両市の特性を生かし、さらなる発展や地域の活性化につなげます。



SUPタウンプロジェクト 新隊員仲間入り

9月2日、市役所で「地域おこし協力隊辞令交付式」が行われました。SUPを通して地域経済の拡大や交流人口・関係人口の創出を図る「阿南SUPタウンプロジェクト」の新隊員となったのは、川嶋愛さん（39歳・兵庫県尼崎市出身）。川嶋さんは、「自然と一体化したSUPの魅力を通して、阿南を盛り上げていきたい」と意気込みを語りました。

日本語スピーチコンテストを開催

「第2回日本語スピーチコンテスト」（阿南市国際交流協会主催）が9月8日、ひまわり会館で開催されました。日本語教室で学ぶ6カ国10人の外国人が35人の参観者を前に、日本での生活の感想、日ごろ考えていること、将来の夢などのテーマで意見発表をしました。参観者からは「日本語が上手」「よく勉強している」「来年も続けてほしい」などの意見がありました。

